

第9章

ボリビア

1. ボリビアの概要

1.1) 一般事情

1. 面積 110万平方キロメートル(日本の約3倍)
2. 人口 1,005万9千人(2014年7月 国家統計局)
3. 首都 ラパス(La Paz、憲法上の首都はスクレ)
4. 民族 先住民41%、非先住民59%
5. 言語 スペイン語(公用語)
6. 宗教 国民の大多数(95%以上)はカトリック教

1.2) 政治・経済

1. 政体 立憲共和制
2. 元首 エボ・モラレス・アイマ大統領
3. 議会 二院制(上院36人、下院130人)
4. 政府
 - (1) 副大統領 アルバロ・ガルシア・リネラ
 - (2) 首相 首相職無し
 - (3) 外相 ダビッド・チョケワンカ・セスペデス
5. 一人当たりのGDP

3,035ドル(2014年国家統計局)

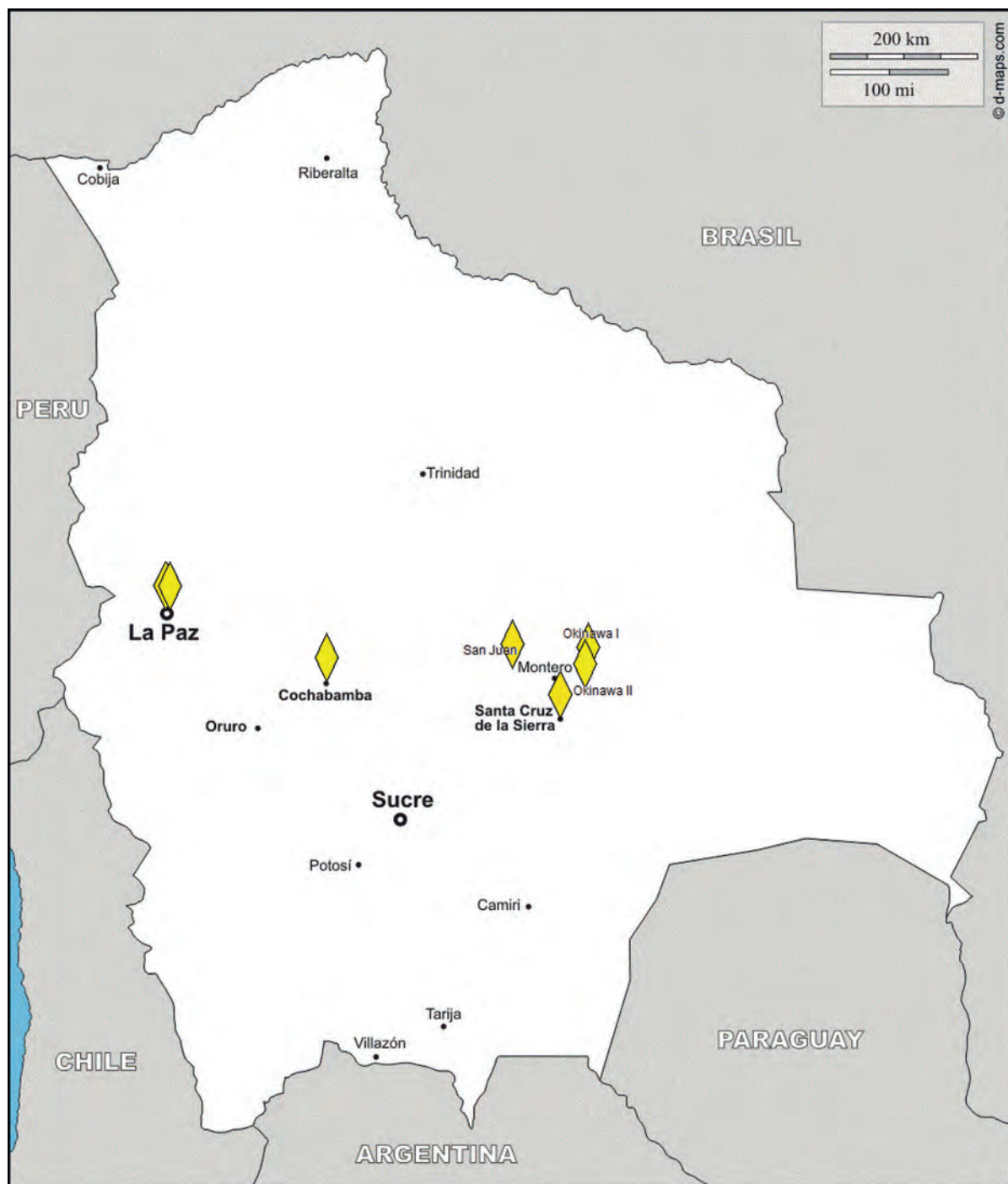
1.3) 教育制度等

1. 担当行政機関 教育省(Ministerio de Educación)
2. 学校制度 2・6・6・4～6制
3. 義務教育期間 5歳～18歳
4. 学校年度 2月上旬～11月上旬
5. 学期制 3学期制
6. 授業料 公立は無料、私立は500～12,900US\$/年
7. 成人の識字率 94%
8. 初期教育純就学率 87%

1.4) 日本との関係

- ➡ 1914年 外交関係樹立
- ➡ 1952年 外交関係再開
- ➡ 1956年 移住協定

2. 日本語教育機関分布状況

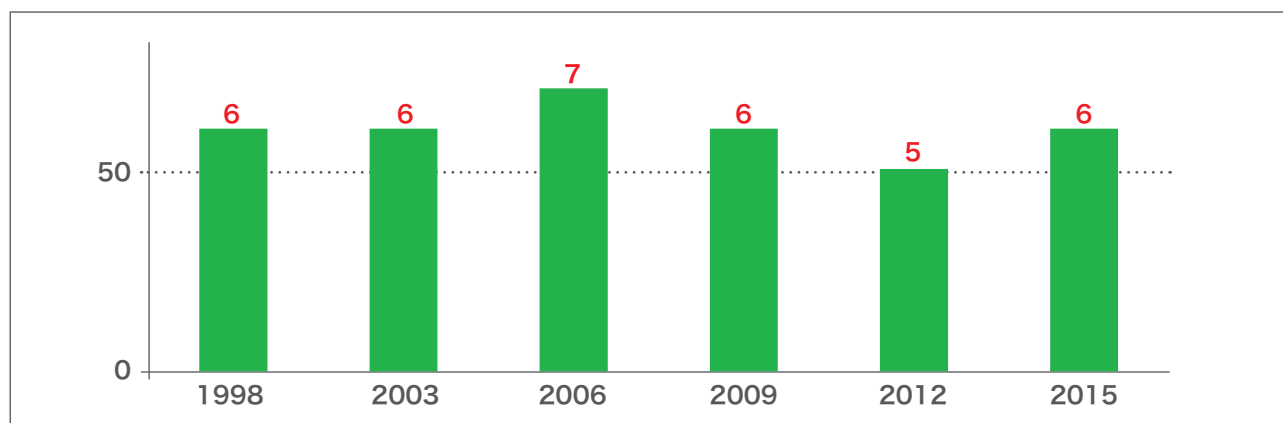


http://d-maps.com/carte.php?num_car=4750&lang=en

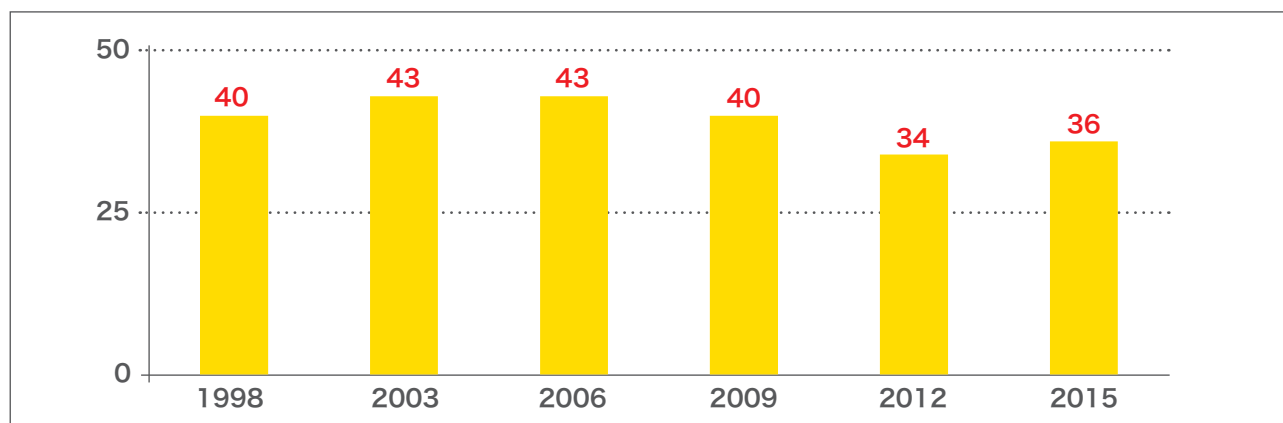
3. 日本語教育事情

3.1) 基本情報

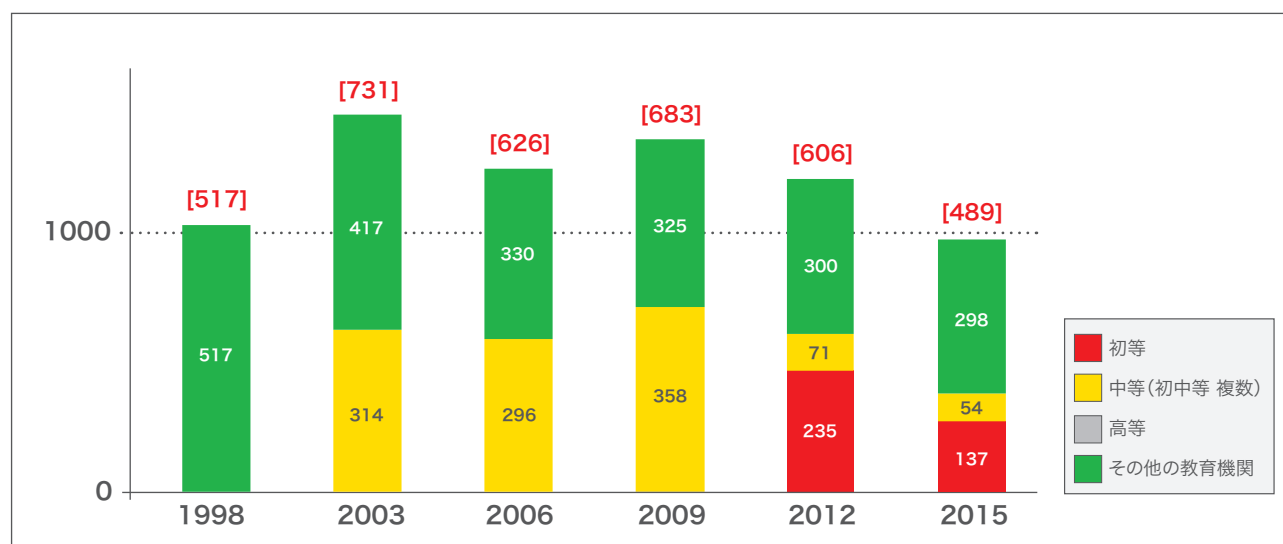
3.1.1) 機関数(1998年～2015年)



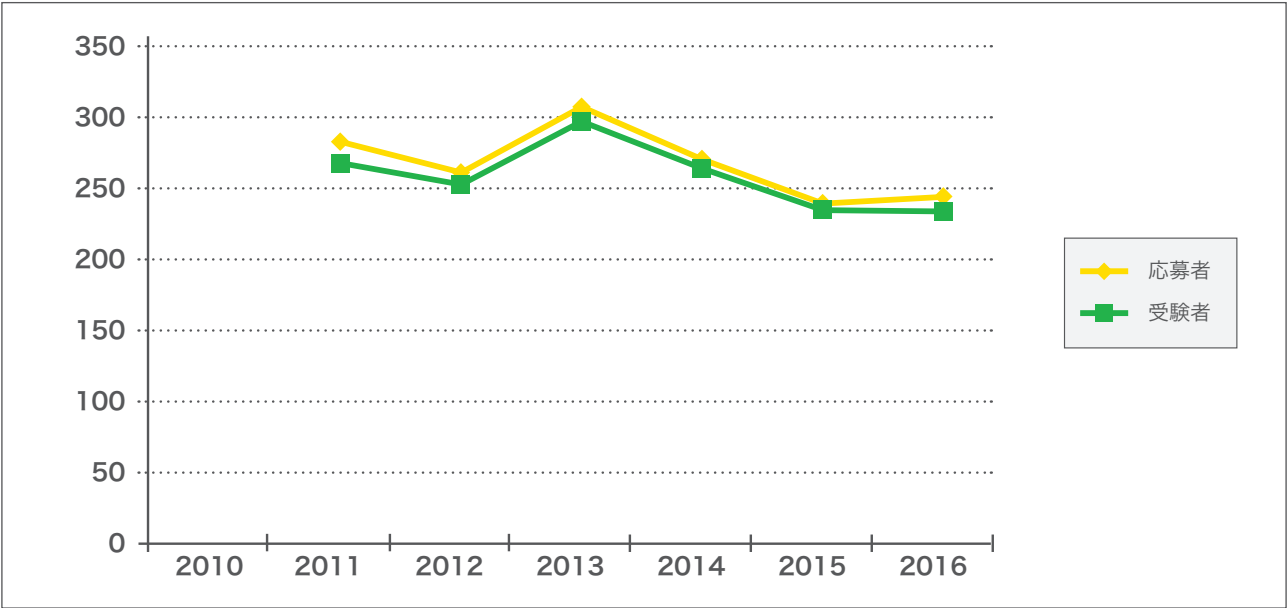
3.1.2) 教師数(1998年～2015年)



3.1.3) 教育段階別学習者数(1998年～2015年)



3.1.4) 日本語能力試験応募者数・受験者数(2010年～2014年)



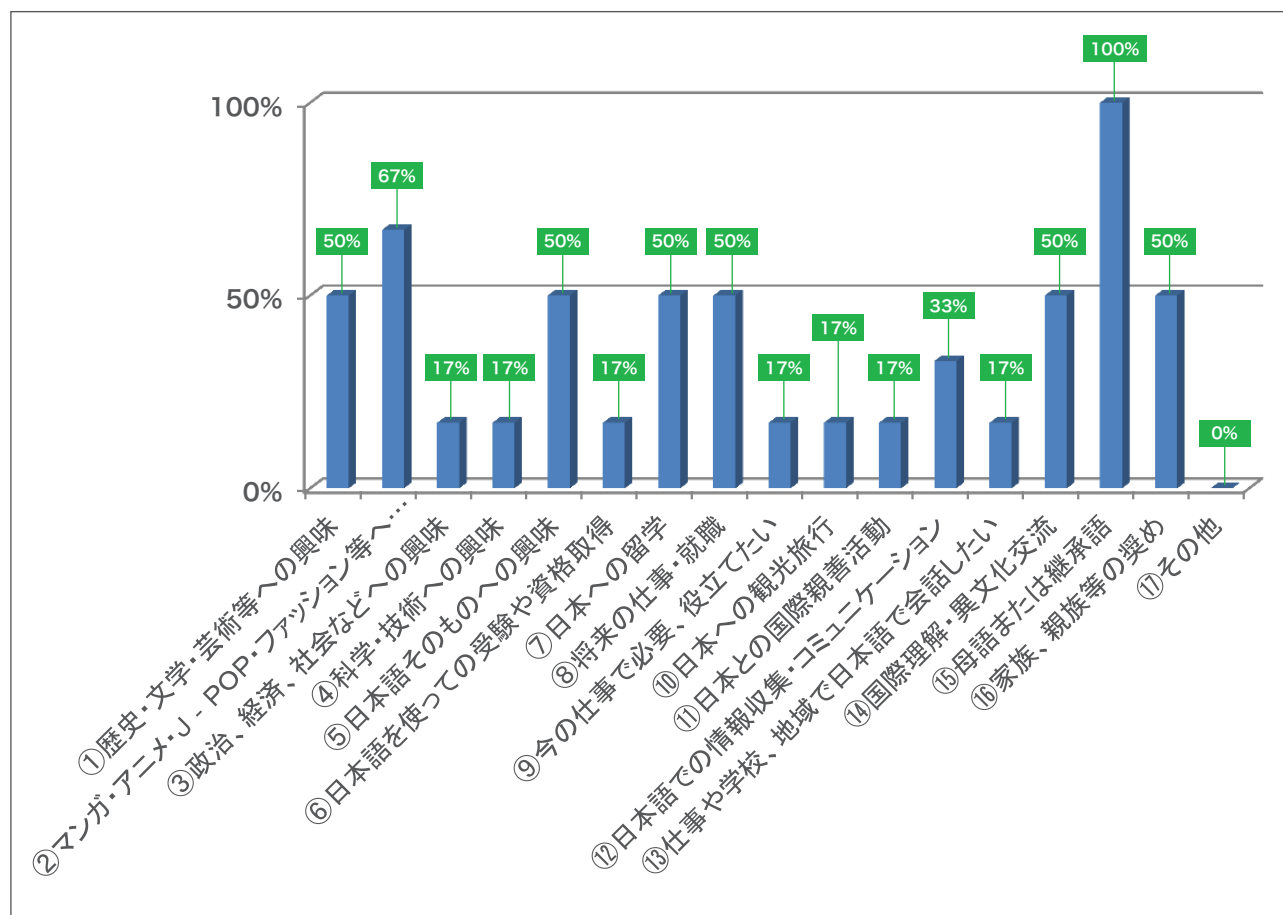
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
応募者		285	262	311	272	239	244
受験者		268	252	299	264	233	232

- ▶ 実施都市： サンタクルス、ラパス(開始年:1994年)
- ▶ 時期： 7月(2011年から)
- ▶ 実施機関： ポリビア日系協会連合会(2006年から)

2015年 JLPTレベル別受験者数

レベル	N1	N2	N3	N4	N5	合計
人数	32人 (14%)	33人 (14%)	48人 (21%)	65人 (28%)	54人 (23%)	232人

3.1.5) 日本語学習の目的・理由(2015年)



3.1.6) 日本語教育実施状況(2015年)

項目	スケール	機関数	割合
A 学習者数に対する教師の数	多い	0	0%
	ちょうどよい	2	33%
	少ない	4	67%
	わからない	0	0%
B 十分な日本語運用能力を備えている教師	4分の3以上	5	83%
	2分の1程度	1	17%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%
C 十分な日本語教授の知識・技術を備えている教師	4分の3以上	1	17%
	2分の1程度	4	67%
	4分の1以下	1	17%
	わからない	0	0%
D 日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	3	50%
	2分の1程度	3	50%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%
E 日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	3	50%
	2分の1程度	3	50%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%
F 学習者数に対して日本語教材の数	十分である	0	0%
	概ね揃っている	4	67%
	不足している	2	33%
	わからない	0	0%
G 現在使っている教材は学習者に合っているか	非常に合っている	1	17%
	どちらかといえば合っている	4	67%
	不足している	1	17%
	わからない	0	0%
H 現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か	適切である	2	33%
	どちらとも言えない	3	50%
	適切ではない	1	17%
	わからない	0	0%
I 施設(建物・教室)の状況	よい	0	0%
	現状で支障はない	3	50%
	やや支障がある	3	50%
	わからない	0	0%
J 日本語教育設備、機器の状況	よい	0	0%
	現状で支障はない	2	33%
	やや支障がある	4	67%
	わからない	0	0%
K 積極的に授業に取り組む学習者	4分の3以上	3	50%
	2分の1程度	3	50%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%

※50%以上 、30%~49% (無回答を除く)

3.2) 機関情報

3.2.1) ボリビア日系協会連合会

西語名: Asociación de Nikkei Boliviano - Japonesa

住所: Calle Juan Coimbra N° 57, Santa Cruz

電話: +591-3-333-1452

メール: fenaboja@cotas.com.bo

サイト: www.kyoren.com.ar

概要: 1973年に設立された「サンタクルス州日ボ文化協会」と1988年に発足した「全ボリビア日系連合協会」が1996年に一本化され、1999年に非営利団体として法人格を取得した。以前の西語名称は、Federación Nacional de Asociaciones Boliviano Japonesasであったが、2015年の法人格更新に伴い西語名称をAsociación de Nikkei Boliviano - Japonesaに変更した。ボリビアの日系団体統括組織で、正会員5団体と準会員5団体で構成されている。正会員は、サンタクルスの「オキナワ日ボ協会」「サンフアン日ボ協会」「サンタクルス中央日本人会」、ラパスの「ラパス日本人会」、また2016年9月から正会員となった「コチャバンバ日ボ文化協会」の5団体。JLPT実施機関。下位組織に教師会の役割を果たす「ボリビア日本語教育研究委員会」（通称、ボ日研）がある。現在、JICAと共に日本学園（仮）設立計画を進めている。2017年2月現在、JICA日系社会青年ボランティア（職種：日本語教育）が1人派遣されている。主に、サンタクルス日本語普及学校で活動を行っている。

3.2.2) ラパス、ボリビア日本文化財団 日本語普及学校

西語名: Fundación Cultural Boliviano Japonesa La Paz, Curso de Idioma Japonés

住所: Batallón Colorados #98 Esq. Federico Suazo La Paz

電話: +591-2441995

メール: fukyuu_lpz@hotmail.com

サイト: www.kyoren.com.ar

概要: 1970年にボリビア人を対象に日本語普及および日本文化紹介の目的で設立された。もともとラパス日本人会が運営していた日本語普及学校を、2007年に独立法人化し、「ラパス、ボリビア日本文化財団」とした。運営団体は同財団であるが、施設は日本人会のものを借りている。学習者数は平均160～170人程度。主教材に『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』を使っている。習熟度別クラスでレベル5までが初級、レベル6は初中級扱い（N4認定で修了）、レベル7は日本語学習を継続したい人たちのため（N3/N2認定で修了）となっている。

3.2.3) ラパス日本人会 ラパス補習授業校

西語名: Sociedad Japonesa de La Paz, Curso Suplementario del Idioma Japonés - La Paz

住所: 3-2-2ラパス日本語普及学校に同じ。

電話: 3-2-2ラパス日本語普及学校に同じ。

メール: lapaz_hoshu@yahoo.co.jp

概要: 運営は、ラパス日本人会が行っている。1952年に生徒20名で全日制の授業を開始。一時学校が閉鎖され、授業が中断されたが、1969年に再開され「ラパス日本人会日系人子弟補習教育教室」と名称を改めた。1981年に日本政府より「ラパス補習授業校」に認定された。満5歳以上の日系子弟を対象に毎週土曜日に授業を行なっている。主教材は『こどものほんご』（低学年）、光村図書『こくご』（高学年）を使用している。2016年度の生徒数は33名（5歳～19歳）であった。基本的に日本人子弟を対象としているが現在はボリビア人が多い。日系企業がないため在留邦人は大使館またはJICA関係者のみ。ラパス日本人会の会員は約150世帯（大使館、JICA関係者含む）。

3.2.4) サンタクルス中央日本人会 サンタクルス日本語普及学校

西語名: Centro Social Japonés de Santa Cruz

住所: Avenida Beni N°40, Calle Los Tajibos, Santa Cruz

電話: +591-3-342-6891 (日本人会)、+591-3-345-1672 (普及学校)

メール: csj-sc@cotas.com.bo (日本人会)、sc.nichigo@gmail.com (普及学校)

サイト: www.kyoren.com.ar

概要: 平日クラスと土曜日クラスがある。平日クラスは15歳以上を対象にしており、学習者数は約25～30人。2016年から『できる日本語』を主教材として使っている。土曜日クラスは、日本人会会員子弟(4歳～13歳)を対象としており、65人の児童生徒がいる。うち1割が家庭でも日本語を使う環境にある。教材は、『にほんごだいすき』を使用している。現在、教師は7名、JICA日系社会青年ボランティア(職種:日本語教育)が連合会経由で派遣されている。

3.2.5) サンフアン学園

西語名: Unidad Educativa "San Juan"

住所: Colonia Japonesa San Juan, Santa Cruz

電話: +591-3-934-7055

メール: uedusanjuanap@abj-sanjuan.org.bo

サイト: www.kyoren.com.ar

概要: 2012年まで同学園では日本語が正規科目であったが、2009年の教育制度改革に伴い、2013年から教育課程外の選択科目となった。政府公認下の学校施設内で日本語が教えられているが、日本語は正規科目とし認められてはおらず、課外活動の位置づけになっている。児童生徒は約310人(日系90人、非日系220人)おり、160人が日本語の授業を受けている。

日本語のクラスには、家庭内での使用言語が日本語である子どもたちを対象とした「継承日本語クラス」、主に非日系の児童生徒を対象とした「日本語普及クラス」、日本語普及クラスの中でも成績の良い児童生徒が5年次以降に入る「ひまわりクラス」の3種類がある。8年生修了時まで、光村図書の『こくご』6年生を終える。最終到達レベルはN2～N1程度。2015年6月より、JICA日系社会青年ボランティア(職種:日本語教育)が1人派遣されている。夏季補習期間中に移住学習、夏季行事に合わせて文化学習を行ったりもしている。

3.2.6) オキナワ第一日ボ学校

西語名: Colegio Particular Mixto Centro Boliviano Japonés Okinawa I

住所: Colonia Okinawa 1, Santa Cruz

電話: + 591-3-923-7122

メール: colegiocbj@hotmail.co.jp

概要: オキナワ第一移住地にあり、午前中は正規の西語課程(幼稚園、初中等)、午後3コマ(1コマ45分)が日語課程となっている。日語課程では、日本語、体育、音楽、図書などの授業もある。西語課程の全校生徒は64人(日系48人、非日系16人)、うち60人が日語課程を受講している。教材は、光村図書の『こくご』、『にほんごドレミ』、『にほんごジャンプ』などを使用している。2014年8月に沖縄県教育委員会とJICA沖縄国際センターの間で、JICA青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」を活用した沖縄県教員のポリビアへの派遣に関する合意書が締結されており、2021年度まで毎年度沖縄県からオキナワ日本ポリビア協会に青年海外協力隊1人(職種:小学校教育)が派遣される予定。2015年9月より、第1期となる1名が同校に派遣されている。文化学習として、三線、エイサー、また移住学習にも取り組んでいる。

3.2.7) ヌエバ・エスペランサ日本語学校

西語名: Unidad Educativa “Nueva Esperanza II”

住所: Colonia Okinawa 2, Santa Cruz

電話: +591-3-931-8149

メール: okinawa2nueva@yahoo.co.jp

概要: オキナワ第二移住地にあり、隣接する学校で午前中に正規の西語課程を終えた児童生徒が週4日、1日3コマ(40分)、同校で日語課程を受けている。西語課程の全校生徒は約120人(日系25人、非日系95人)、うち22人が日語課程を受講している。立地的に交通の便があまり良くないため、児童生徒のほとんどは、学校近辺のオキナワ第二移住地と第三移住地から通学してくる。教材は光村図書の『こくご』を使用。3年生でN5、卒業時(8年生)にN2またはN1合格を目指している。オキナワ第一日本語学校同様、2016年9月から、オキナワ日本ボリビア協会(ヌエバ・エスペランサ日本語学校)に沖縄県現職教員の青年海外協力隊1人(職種:小学校教育)が派遣されている。移住学習、キャリア教育、文化継承としてエイサー、三線、オキナワ舞踊にも取り組んでいる。

3.3) 教師会

ボリビア日系協会連合会に属する組織である「ボリビア日本語教育研究委員会」(通称、ボ日研)が教師会の役割を果たしている。1980年に組織された「サンタクルス州日本語教育研究会」が、1997年に連合会の中に再編され、現在はラパスの教師も会員となっている。ただし、距離的、予算的な問題等のため、活動の中心はサンタクルス県内に限定されている。

機関名 (原語/日本語)	Comité de Estudios de la Enseñanza del Idioma Japonés en Bolivia ボリビア日本語教育研究委員会
住所	ボリビア日系協会連合会(3-2-1)に同じ。
連絡	ボリビア日系協会連合会(3-2-1)に同じ。
設立/会員数	1997年/47人
活動	教師研修会(ワークショップ、セミナー) 連絡会、会議開催(役員会5回/年) 催事(弁論大会等)開催 教材開発
組織概要	ボリビア日系協会連合会教育委員会所属
組織概要	お話大会文集(年1回)、要覧(年1回)

3.4) 教師資格・教師養成

3.4.1) 教師資格

各機関で資格・条件を設定しているところもあるが、日本語教師としての資格要件は特にない。

3.4.2) 教師養成

日本語教師養成機関、養成講座なし。

3.5) 研修・助成利用実績

3.5.1) 教師対象

南米の日本語教師が利用できる教師研修には、JFの公募プログラムにある海外日本語教師研修、CBLJが行っている汎米研修がある（☞第1部2-2, 2-3）。また、日系人であれば、JICAの日系研修も利用可能である。

▶ JF訪日研修参加実績(1989年～2016年)

年	研修	所属(申請当時)
1989	短期研修	サンタクルス中央日本人会
1990	短期研修	ラパス日本人会 日本語普及学校
1991	在外邦人研修	リベラルタ日本ボリビア 文化協会
1992	在外邦人研修	ラパス日本人会 日本語普及学校
1993	短期研修	ラパス日本人会 日本語普及学校
1994	在外邦人研修	サンタクルス中央日本人会 日本語普及学校
1995	在外邦人研修	サンタクルス中央日本人会 日本語普及学校
1996	在外邦人研修	ラパス日本人会 日本語普及学校
1997	短期研修	ラパス日本人会 日本語普及学校
2004	短期研修	サンファン日本ボリビア協会
2008	短期研修	ラパス、ボリビア日本文化財団 日本語普及学校
2013	日系人研修	オキナワ第一日ボ学校

※ 在外邦人研修は現在行われていない。日系人研修は2012年度から開始。

▶ CBLJ汎米日本語教師合同研修会参加実績

年度	人数	機関
2004	2人	サンタクルス日本語普及学校
2005	1人	オキナワ第一日ボ学校
2006	2人	オキナワ第一日ボ学校、ラパス日本人会日本語普及学校
2007	1人	サンタクルス日本語普及学校
2008	2人	サンタクルス日本語普及学校
2009	1人	ヌエバ・エスペランサ日本語学校
2010	1人	サンファン学園
2011	1人	ラパス補習授業校
2012	0人	
2013	2人	ラパス補習授業校、ヌエバ・エスペランサ日本語学校
2015	1人	オキナワ第一日ボ学校
合計	14人	

その他に日系人の日本語教師が利用できる研修にJICAの日系研修がある。

www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html

3.5.2) 学習者対象

日系非日系を問わず利用できるものには、JF本部事業の「日本語学習者訪日研修」、FJSP主催の「南米中等教育生徒サンパウロ研修(以下、サンパウロ研修)」がある。サンパウロ研修の対象者は、公教育の日本語講座で2年以上の日本語学習経験がある13歳から18歳までの学習者が対象となっている。

日系人であれば、JICAの日系次世代育成研修⁷⁵、CBLJ主催のふれあいセミナー⁷⁶(費用は自己負担)などがある。CBLJによると、過去に同セミナーに88人⁷⁷の参加実績があるとのこと。

▶ JF日本語学習者訪日研修(各国成績優秀者)

日本語を学習し、優秀な成績を修めている学習者を2週間日本に招へいし、講義や研修旅行を通じて、日本語および日本文化・社会への理解を深める機会を提供するプログラム。以下は参加実績。

年度	人数	所属先(申請当時)
1997	2人	ラパス日本語普及校、ラパス日本人会日本語普及学校
1998	2人	サン・アンドレス大学、ボリビアの海軍学校
1999	2人	英会話学校(CBA)、サン・アンドレス大学
2000	2人	カトリック大学、ガブリエルレネモレノ大学
2001	2人	Industria Maderera Suto、ボリヴィア・カトリック大学
2002	1人	ラパス日本人会日本語普及学校
2003	0人	
2004	1人	国立サン・アンドレス大学
2005	1人	不明
2006	1人	不明
2007	1人	サン・アンドレス大学
2008	1人	ラパペレラS.A.
2009	1人	サン・アンドレス大学
2010	1人	ラパス、ボリビア日本文化財団 日本語普及学校
2011	1人	国立サン・アンドレス大学(04.02～09.05)
2012	1人	MENTOR
2013	1人	アルケミアアクセサリー
2014	1人	ラパス、ボリビア日本文化財団 日本語普及学校
2015	1人	無所属

※ 参加者は、国際交流基金海外拠点または在外公館の推薦にもとづき、関西国際センターが決定する。ボリビアでは、大使館による筆記試験と面接により推薦者を選考している。

⁷⁵ 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。

⁷⁶ 詳しくはCBLJのサイト(www.cblj.org.br)を参照。

⁷⁷ CBLJ情報(2016年5月)

▶ 南米中等教育生徒サンパウロ研修

国内の中等日本語教育機関のうち、同研修の対象校は1のサンファン学園のみ。研修の連絡等のとりまとめはボリビア日系協会連合会事務局が行っている。

機関名	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1 サンファン学園		0人	1人	1人	1人
ラパス、ボリビア日本文化財団 日本語普及学校 ⁷⁸	1人				
ヌエバ・エスペランサ日本語学校 ⁷⁹	1人				

3.5.3) 機関支援(助成)

2009年度まで海外における日本語教育の分野には「海外日本語講座現地講師謝金助成」、「海外日本語弁論大会助成」、「海外日本語教育ネットワーク形成助成」、「日本語教材寄贈」があったが、2010年度よりこれまでのプログラムを統合した新しい公募助成プログラム「日本語普及活動助成」が実施されるようになった。また、同助成は2017年度より名称が「海外日本語教育機関支援(助成)」に改められた。⁸⁰

年度	機関	助成
2007	ラパス日本人会日本語普及学校	海外日本語講座現地講師謝金助成
2007	オキナワ日ボ協会オキナワ第一日ボ学校	日本語教材寄贈
2007	オキナワ日ボ協会ヌエバ・エスペランサ日本語学校	日本語教材寄贈
2007	サンファン日本ボリビア協会	日本語教材寄贈
2007	ラパス日本人会日本語普及学校	日本語教材寄贈
2007	サンタクルス中央日本人会	日本語教材寄贈
2008	ラパス・ボリビア日本文化財団 日本語普及学校	海外日本語講座現地講師謝金助成
2008	リベラルタ日本ボリビア文化協会	日本語教材寄贈
2008	ラパス・ボリビア日本文化財団 日本語普及学校	日本語教材寄贈
2008	サンタクルス中央日本人会 日本語普及学校	日本語教材寄贈
2009	ラパス・ボリビア日本文化財団 日本語普及学校	海外日本語講座現地講師謝金助成
2009	オキナワ日ボ協会オキナワ第一日ボ学校	日本語教材寄贈
2009	オキナワ日ボ協会ヌエバ・エスペランサ日本語学校	日本語教材寄贈
2009	サンファン日本ボリビア協会	日本語教材寄贈
2009	ラパス・ボリビア日本文化財団 日本語普及学校	日本語教材寄贈
2011	社団法人サンファン日本ボリビア協会	教材購入
2011	社団法人在亜日本語教育連合会	教材購入
2011	社団法人在亜日本語教育連合会	学習者奨励活動

⁷⁸ その他の教育機関のため2013年から対象外。

⁷⁹ その他の教育機関のため2013年から対象外。

⁸⁰ 参考：「平成29年度公募プログラムガイドライン」www.jpff.go.jp/j/program/dl/guidelines_j_2017.pdf

3.6) 出講・派遣実績

3.6.1) JF専門家

▶ 出講実績

年度	訪問先／研修会名	テーマ／内容
2002	日本語教育巡回セミナー	不明
2006	日本語教育巡回指導	文法(助詞の教え方)

3.6.2) JICAボランティア⁸¹

1985年から2015年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計63人。

【 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 】

	配属先	人数
高等教育	ボリヴィア・カトリック大学	4人
その他	リベラルタ日本ボリビア文化協会	5人 ⁸²
	リベラルタ地方教育局	2人

【 日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティア 】

	配属先	人数
日系日本語学校	サンフアン日ボ協会	14人
	サンタクルス中央日本人会	7人
	オキナワ日ボ協会 ＜オキナワ第一日ボ校＞	10人
	オキナワ日ボ協会 ＜ヌエバ・エスペランサ校＞	8人
	ラパス日本人会	4人
	トリニダ日系人協会	3人
	ボリビア日系協会連合会	6人

【 2017年4月の派遣状況 】

配属先	ボランティア	期間
ボリビア日系協会連合会	日系社会青年ボランティア	2016年7月~2018年7月
サンフアン学園	日系社会青年ボランティア	2015年6月~2017年6月

※ 職種は日本語教育ではないが、ヌエバ・エスペランサ校に沖縄県現職教員の青年海外協力隊が1名(職種:小学校教育)派遣されている

⁸¹ JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」

⁸² 日系社会青年ボランティア1名を含む。

4. 行動計画

4.1) 現状認識

【地理的状況】

日本の約3倍の広さがある。日本語教育機関があるのは、行政・立法府の置かれているラパス、戦後の入植地であるサンタクルス県内の市内、サンフアン移住地、オキナワ移住地である。最近コチャバンバでも日本語教室が新たに開講している。また、集団移住が始まる戦前、ゴム景気に沸いていたボリビアには、ペルーからの転入者が多く、ボリビア北部のベニ県（主にリベラルタ周辺）に移り住んだ。このような戦前移民は、多くの場合1世で日本語が途絶えており、2世以降に日本語を解する者はほとんどいない。しかし、このような日系人はボリビアの日系人全体の75%に当たると言われている（図2.日本語教育機関分布状況）。

【日本語教育の沿革】

1954年に計画移住が始まり、移住者はサンタクルス県のサンフアン移住地、オキナワ移住地に入植した。移住直後から日本語学校が作られ、日系子弟を対象に継承日本語教育が始められた。現在そのような日本語学校の一部は、政府に認可された学校（公認校）となっている。また、その一つであるサンフアン学園（図3-2-5）では日本語が第二外国語（正規科目）として教えられていた。しかし、2011年の教育法の改正により、現在は正規科目ではなく、課外活動の位置づけとなっている。現在、サンタクルス県の移住地では、継承日本語教育と日系日本語教育が併存しているが、ラパスでは外国語としての日本語教育が主流である。

【日本語教育の全体的状況】

2015年のJF日本語教育機関調査では、機関数6、教師数36、学習者数489で、学習者数は近年減少傾向にあり、特に初中等教育段階の学習者数が減少している（図3-1）。移住地における日系子弟の数が減少していることが要因として考えられる。JLPT受験者数は2013年以降減少傾向にある。JLPT受験者数のうち、上位級の受験者の割合が高く、日本語学習者の日本語力の高さが窺える（図3-3-4）。

【日本語学習の目的・理由】

目的・理由として、母語または継承語の割合が圧倒的に高い（図3-3-5）。移住地（サンタクルス）で日本語を学習している世代の多くは3世で、日系社会の現地への同化が進み、日本語の使用環境が減ってきていると言うものの、今も継承日本語教育の側面が強いことがわかる。また、外国語としての日本語教育が主流であるラパスでも、学習者の中に日系人がおり、限定的に日系日本語教育が行われているためこのような結果になったと考える。

【日本語教育実施状況】

教師の日本語運用力は十分であるが、教授知識・技術が十分でないと考えられているようである。また、外国語としての日本語教育が行われている国と比べると、積極的に授業に取り組む学習者の割合が低めである（図3-1-6）。日系にルーツを持つ学習者は本人の意思というより親の意向で日本語を学習していることが多く、動機が低いと言われることがあるが、ここでも同様の傾向が見られる。日本語運用力については、地域・家庭の中で日本語を使用してきた世代（主に2世）が教師になっていることもあり、あまり問題として捉えられていないが、日本語ができるが故に日本語を教え始めた教師も多く、教授知識・技術不足が課題となっていると考えられる。また、聞き取り調査では、日々の授業はできるが研修などの講師が務まる教師がいないことも課題であるということが聞かれた。

【中核機関／主要機関】

ボリビア日系協会連合会（以下、連合会）を中核機関とする。国内のすべての日本語教育機関を統括しており、教師研修会やJLPTなどの日本語教育関連事業も実施している（図3-2-1）。

【ネットワーク状況】

日本での研修(JF訪日研修、JICAの研修)やCBLJ主催の汎米研修と4か国代表者会議を通して、日本やブラジル、また日系社会のあるアルゼンチン、パラグアイ、ペルーとのネットワークが構築されている。2015年と2016年の南米会議を通して、その他のスペイン語圏の国との機関同士および教師間の日本語教育ネットワークも構築されつつある。

【教師養成、教師研修】

教師養成講座や機関はないが、JICA日系研修や各機関で行われているOJTによる教師研修が教師養成につながっていると言える。また、連合会の下位組織であるボリビア日本語教育研究委員会(以下、ボ日研)が定期的に教師研修を行っている(☞3-2-1, 3-3)。JF訪日研修の利用は多くないが、母語話者教師が多いため、またJICAの研修を利用する人が多いためであると推測される(☞3-5-1, 第1部2-1)。ブラジルで行われている汎米研修も積極的に利用されている(☞3-5-1)。JF助成の利用はここ5年ない(☞3-5-3)。

【公的派遣実績】

2002年の巡回セミナーと2006年巡回指導の2回、JF専門家が出講(☞3-6-1)。JICAの日本語教育ボランティアは1985年から2015年の間に63人が派遣されている(☞3-6-2)。

【特記事項(最新動向など)】

サンフアン移住地、オキナワ移住地の学校は、現在も旧教育法の体制のままで、最高学年が8年生である。新教育法では、幼児教育を除く義務教育期間は12年であるため、移住地で8年生を終えた後、近隣の町やサンタクルス市内の高校に進む生徒も少なくない。現在、JICAと連合会の間で、9年制以降の受け皿になるような学校または義務教育期間をカバーする「日本学園(仮)」設立構想が持ち上がっており、話し合いが進められている。

4.2) 方針と具体策

- (1) 日系初中等教育機関「**日本学園(仮)**」設立を通じて、年少者の日本語教育環境整備を図る。
 - イ) 連合会が、JICAと連携しつつ、関係各所と共に「日本学園(仮)」設立を進める。
 - ロ) FJSP・MCは、連合会の要請に応じて、必要かつ可能な支援、助言等を行う。
- (2) 学習者数が減少傾向にある**継承日本語教育および日系日本語教育が行われている機関における日本語学習者数の維持・拡大**を図る。
 - イ) 連合会が、大使館・JICAと連携のもと、引き続き学習奨励活動、教師研修等を行う。
 - ロ) 連合会が、その他の日系社会を抱える国と連携し、情報交換、課題の共有、課題解決策の検討等を行う。
 - ハ) 日本語教育機関が、日系人のみならず、非日系の学習者を取り込むことで学習者の裾野拡大を図る。
 - 二) FJSP・MCは、大使館・JICAと連携のもと、連合会の要請に応じる形で、教師研修(年少者の日本語教育など)への出講、JF訪日研修や助成スキームなどに関する情報提供、助言等を行う。
- (3) 日系人のみならず、非日系の学習者を取り込むことで**学習者の裾野拡大**を図る。
 - イ) 連合会と各日本語教育機関が、学校運営の方法等について情報交換する。
 - ロ) FJSP・MCは、連合会・大使館・JICAと連携のもと、JF開発のオンラインコンテンツに関する情報提供や、助言等を行う。